2007年3月23日　山陽新聞

子ども持つ上で気掛かりは…

経済的負担78%

岡山大生 妊婦意識調査

子どもを持つ上で一番の気掛かりは「経済的負担」―。岡山大医学部保健学科の四年生女子二人が、岡山県内の妊婦を対象に行った調査から、こんな意識が分かった。また、夫の育児休暇取得については約九割が職場での立場や収入減などを理由に「不可能」と回答。男性の育休取得が難しい現状をあらためて浮き彫りにした。（水嶋佑香）

二人は看護学専攻の奥野雅子さん(二三)、宮木ゆかさん(二三)。妊婦を取り巻く環境が、出産・育児への意識にどう影響しているかを探るため、岡山、倉敷市の総合病院七施設で健診を受けた妊婦五百三十六人に二〇〇六年夏、計十七項目を尋ねた。

このうち「子どもを持つ上での支障は」（複数回答）の問いには、育児費や学費、妊娠・出産にかかる費用などの「経済的負担」が78・1%と最も多かった。

次いで「就労条件や託児」が49・2%で、育児と仕事の両立が難しい現状を示した。子どもを狙った凶悪事件が相次ぐ状況などを反映し、「社会的不安」を挙げた人は31・8%いた。

一方、「夫の育休取得を希望するか」では、「取ってほしいとは思わない」が59・2%と過半数を占め、「取ってほしい」(40・8%)を上回った。

夫の育休取得 91%が「不可能」

さらに「夫の育休取得は可能か」では、91・8%が「不可能」と回答。その理由（複数回答）として、職場が困る（59・1%）▽収入減になる(48・9%) ▽職場での立場が悪くなる（40・7%）▽解雇が心配（14・8%）―などを挙げた。

指導した中塚幹也教授（母子看護学）は「妊婦の本音がかいま見える興味深いデータで、出産・育児への経済的サポートや出産後の就労をめぐる環境整備を求めていることが分かる。夫の育休については、現状でのあきらめやがまんがうかがえるのでは」と分析している。

取材メモ

予想超す厳しい環境

▽…奥野さんと宮木さんは四月から、助産師として県内の病院で新たな一歩を踏み出す予定。誕生する命とこれから向き合う二人にとって、調査を通して見えた出産・育児をめぐる社会的環境は、予想を超えて厳しいものに映ったようだ。

▼…結果は、昨年大学を卒業した私と同世代の友人が話してくれた内容とも一致する。「子どもは三人ほしいけど、今の世帯収入では無理。私も働かなくては」という友人は、一人息子を抱えて就職活動中。四月からは子どもを保育園に預ける。育児での夫の協力も、仕事に追われて期待できないのが現実なのだそうだ。

▽…経済的な負担、男性の育児協力、出産後の就労…。子どもを何人持つかを女性が考える上での大きなポイントだ。調査では、理想とする子どもの数の平均は二・七人なのに対し、「現実的な人数」は二・一人に下がることも分かった。この差をどう埋めるか。二人には今後も〝現場〟の声を伝えてほしい。（水嶋佑香）